

# 2023年4月期 第2四半期決算説明資料

---

---

2022年12月23日

 株式会社マツモト

**I 2023年4月期第2四半期決算ハイライト**

**II 2023年4月期第2四半期決算概要**

**III 2023年4月期通期業績予想**

# 2023年4月期 2Q 決算ハイライト

当社の売上高は、学校アルバムの販売が約8割を占め、売上、利益ともに4Qに大きく偏るため、例年2Q累計期間の業績は低い水準となる傾向があります。

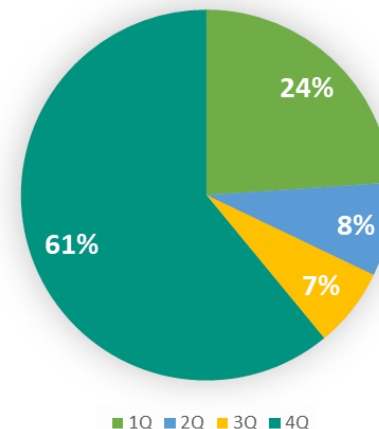
## 営業損益、経常損益

当2Qにおいては、受注高、売上高とも前年同期を下回りましたが、前期末に実施した固定資産の減損処理による減価償却費の大幅な減少などにより、営業損失、経常損失とも大幅に縮小しました。

## 四半期純損益

前年同期に元会長が役員退職慰労金を返上したことにともない特別利益を計上した反動で、四半期純損失は13百万円の縮小に留まりました。

前期（22/4期）四半期別売上構成比



(百万円)

	受注高	売上高	営業損失 (△)	経常損失 (△)	四半期純損失 (△)
23/4期 2Q実績	748	666	△349	△338	△341
	前年比-100 -11.9%	前年比-88 -11.7%	前年比+121	前年比+122	前年比+13
22/4期 2Q実績	849	754	△470	△460	△354

# 会社沿革 HISTORY

- 1932年 松本写真工芸所として創業
- 1949年 合資会社松本写真印刷社を設立
- 1978年 東京営業所開設
- 1984年 名古屋営業所開設
- 北九州市門司区猿喰に製版・印刷工場を新增設
- 1986年 北九州市門司区社の木に製本工場新築
- 1989年 株式会社マツモトに社名変更
- 1994年 JASDAQ市場に株式公開
- 現会長 松本敬三郎 社長就任**
- 北九州市門司区松原に印刷・製本工場新築
- 2004年 オンデマンド印刷システム導入
- 2016年 北九州市小倉北区高浜の印刷・製本工場を新築
- 2022年 **松本大輝 社長就任**

## 前会長 コロタイプ印刷導入

優れた再現性、強い耐久性、滑らかな質感。  
製造、営業拠点を拡充し、業容を拡大。

## 現会長 CTP (Computer to Plate)導入

写真フィルムを刷版に焼き付けるという工程をデジタル化し、データをダイレクトに刷版に焼き付ける設備を導入。

## 新体制

Web3.0の世界での新サービスを準備中。  
Webと、ものづくりのシナジー効果を狙う。

## 当社の強み

日本に数台しかない高性能の印刷設備と、高い技術力

### 高精細FMスクリーンによるオフセット印刷

FMスクリーン印刷は、インクの点の大きさを一定に保ち、点の密度を変えて色調を表現する印刷技術です。

従来のインクジェット印刷で用いられていたAMスクリーン印刷（規則正しく並んだドットの大きさを変えて色調を表現する印刷手法）に比べ、モアレ（規則正しく分布した線や点などが重なり合うことで生じる縞や斑などの意図しない模様）が生じることもなく、細かな表現と彩度の高い色彩表現を可能にしました。

### デジタル・インクジェット印刷

オフセット印刷と同等のクオリティを、従来のインクジェット印刷と変わらないコストで提供することを可能にしました。

これらの設備と技術により、**高品質・短納期・小ロット**を可能にしました。

## 当社の強み

### 高浜工場の最新鋭のデジタル・インクジェット印刷機



## ホログラム印刷の設備と技術

ABCシステム  
(ホログラム印刷)

Advance (前進)、Brilliant (鮮やか)、Coating (コーティング)

× フィルムを張り付ける「ラミネート加工」

○ 「フィルム面を印刷物に転写」

環境にやさしい

プラスチックやポリプロピレンを使わない。

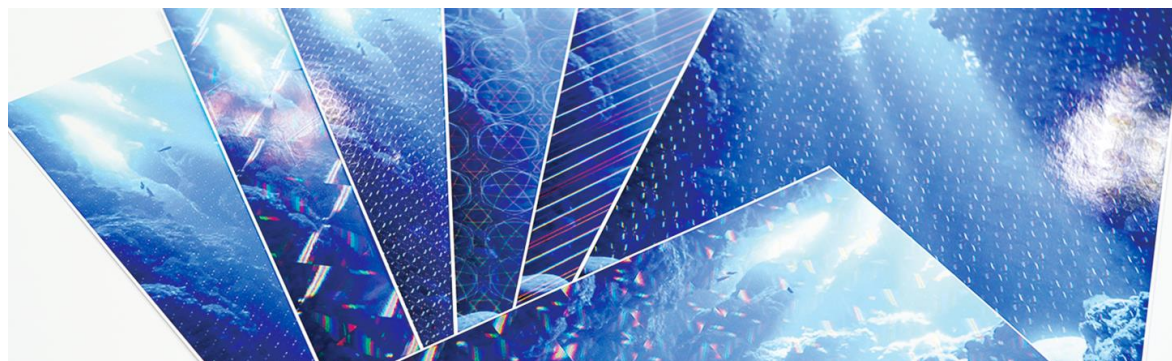
UVでの表面加工なので環境にやさしい。

リサイクル

表面にプラスチックやポリプロピレンのフィルムを貼付していないので、紙資源としてリサイクルが可能。資源循環に直接貢献できる。

デザイン

フィルムによって再現が可能なので、デザインの幅は無限大



## WEB3.0事業について

2023年年初にWEB3.0の世界でのコンテンツビジネス開始予定。

知名度向上を狙い2022年8月に開催されたVチューバーのイベントにスポンサー参加



総勢 **20** 名以上の **人気 VTuber・アーティスト** による  
“**音楽**”と“**スクリーンショット**”をメインにした **オンラインイベント!**

supported by  **株式会社マツモト**  
2022年8月18日 (木) 「Z-aN」にて配信!



## 上場維持基準の適合状況について

第2四半期末においては基準をクリア。

市場との対話に努め、年度末（2023年4月末）での基準適合をめざします。

	単元株主数	流通株式数	流通株式 時価総額	流通株式比率
スタンダード市場 上場維持基準	400人	2,000単位	10億円	25%
2021年6月末現在	342人	1,967単位	4.98億円	51.6%
2022年4月末現在	313人	1,801単位	3.38億円	47.2%
<b>2022年10月末現在</b>	<b>669人</b>	<b>2,098単位</b>	<b>24.56億円</b>	<b>55.0%</b>

## Ⅱ 2023年4月期第2四半期決算概要

1 損益計算書

2 部門別概況

3 貸借対照表

4 キャッシュ・フローの状況

## 損益計算書

(百万円)

	`22/4期 2Q実績	`23/4期 2Q実績	増減
売上高	754	666	-88
営業損失 (△)	△470	△349	121
(営業利益率)	-62.3%	-52.5%	9.8%
経常損失 (△)	△460	△338	122
四半期純損失 (△)	△354	△341	13

※10万円単位を四捨五入（以降の実績値も同様）

経常損失は122百万円の赤字縮小。

四半期純損失は、前2Qに前会長の役員退職慰労金返上に伴う特別利益109百万円があった反動で、13百万円の赤字縮小に留まりました。

## 営業損失縮小要因

(百万円)

	`22/4期 2Q実績	売上高 構成比	`23/4期 2Q実績	売上高 構成比	増減
<b>売上高</b>	754		666		-88
原材料費	190	25%	188	28%	-2
労務費	431	57%	377	57%	-54
製造経費	328	44%	210	32%	-118
うち減価償却費	109	14%	5	1%	-104
仕掛品棚卸高増減	27	4%	17	3%	-10
<b>製造原価計</b>	976	129%	793	119%	-183
製品棚卸高増減	-12	-2%	0	0%	11
<b>売上総損失 (△)</b>	△234	-31%	△127	-19%	106
販管費	236	31%	222	33%	-14
<b>営業損失 (△)</b>	△470	-62%	△349	-52%	121

前期末に実施した固定資産の減損による減価償却費の減少を主因として、製造経費を118百万円削減したことなどにより、営業損失を121百万円圧縮しました。労務費をコントロールし、売上高構成比を維持しました。

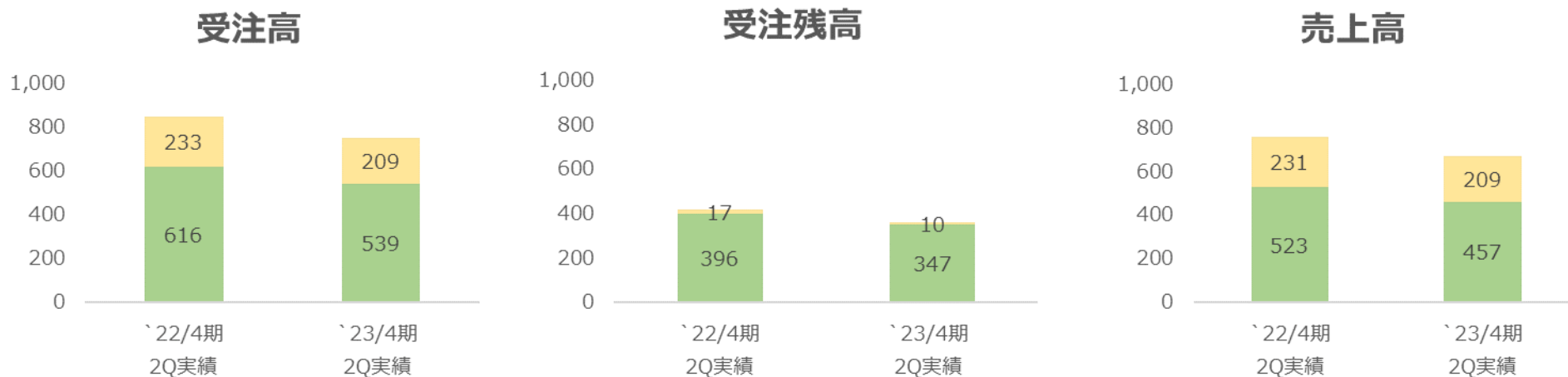
## 部門別概況

(百万円)

	受注高			受注残高			売上高		
	`22/4期 2Q実績	`23/4期 2Q実績	前年同期比 増減率	`22/4期 2Q実績	`23/4期 2Q実績	前年同期比 増減率	`22/4期 2Q実績	`23/4期 2Q実績	増減
学校アルバム	616	539	-12.4%	396	347	-12.5%	523	457	-12.7%
一般商業印刷	233	209	-10.3%	17	10	-40.9%	231	209	-9.6%
合計	849	748	-11.9%	414	357	-13.7%	754	666	-11.7%

学校アルバムの受注残は2Qまでの受注高の影響を受けますが、一般商業印刷は受注から売上までの期間が短いため、3Q、4Qにおいては、利益率の高い一般商業印刷の受注獲得に注力し、売上高の積み上げを狙います。

■ 一般商業印刷 ■ 学校アルバム



## 貸借対照表

	`22/4期 期末実績	`23/4期 2Q末実績	増減
現金・預金	948	215	-733
売上債権	224	122	-101
棚卸資産	124	114	-10
その他	6	18	12
流動資産計	1,302	469	-833
有形固定資産	1,093	1,172	80
無形固定資産	0	4	4
投資その他の資産	255	245	-10
固定資産計	1,348	1,421	74
総資産計	2,650	1,890	-759

(百万円)

	`22/4期 期末実績	`23/4期 2Q末実績	増減
買掛金	255	125	-130
未払金	207	0	-207
賞与引当金	58	56	-2
その他	190	191	1
流動負債計	710	371	-338
長期借入金	100	71	-29
その他	401	359	-42
固定負債計	501	431	-70
純資産計	1,439	1,089	-350
負債・純資産合計	2,650	1,890	-759

## キャッシュ・フローの状況

(百万円)

	`22/4期 2Q実績	`23/4期 2Q実績	増減
現金・現金同等物の期首残高	758	948	190
営業キャッシュ・フロー	△376	△536	-159
投資キャッシュ・フロー	△2	△194	-192
フリー・キャッシュ・フロー	△379	△729	-351
財務キャッシュ・フロー	△41	△4	37
現金・現金同等物の2Q末残高	339	215	-124

## 営業キャッシュ・フローの状況

(百万円)

	`22/4期 2Q実績	`23/4期 2Q実績	増減
税引前四半期純損失	△351	△338	13
減価償却費	117	13	-104
役員退職慰労金引当金の増減	△105	△39	66
売上債権の増減	98	92	-6
棚卸資産の増減	50	10	-40
仕入債務の増減	△121	△132	-12
未払消費税の増減	△36	△86	-50
その他	△28	△56	-28
<b>営業キャッシュフロー</b>	<b>△376</b>	<b>△536</b>	<b>-159</b>

経常損失は122百万円の赤字縮小となりましたが、当2Qの税引前四半期純損失は前2Qに前会長の役員退職慰労金返上に伴う特別利益があった反動で13百万円の赤字縮小に留まりました。

棚卸資産の減少額縮小や未払消費税の減少などの影響もあり、減価償却費の減少額を補えず、営業CFの赤字が拡大しました。

4Qの売上高に過度に依存することなく、年間を通してキャッシュを稼ぐことができるビジネスへの転換を急ぎます。



I 2023年4月期第2四半期決算ハイライト

II 2023年4月期第2四半期決算概要

**III 2023年4月期通期業績予想**

## 2023年4月期 通期業績予想

売上高が上振れたことなどから2Qの業績は期初予想を上回りました。

原材料コストの上昇など不透明感があり通期予想を据え置きますが、確実な黒字転換を目指してまいります。

### 2Q予想上方修正

(百万円)

	売上高	営業損失 (△)	経常損失 (△)	四半期純損失 (△)
期初予想	600	△500	△480	△500
実績値	665	△349	△338	△341
増減額	65	151	142	159
前2Q実績	754	△469	△460	△354

### 通期業績予想は据え置き

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
予想	2,320	60	80	40
前期実績	2,349	△207	△188	△1,287